



尼都施第 10014 号
平成 19 年 5 月 8 日

国土交通省道路局長
宮田年耕 様

尼崎市 市長
白井文



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

みだしのことについて、つぎのとおりお答えします。

（対 平成 19 年 4 月 2 日付け国道企第 114 号）

＜重点化を進める上で特に優先度の高い政策＞

本市は、大阪と神戸の間に位置し、東西方向の通過交通が多く、国道 43 号に代表されるように、沿道の環境問題を抱え、その解決が大きな地域ニーズの一つとなっています。

加えて地球温暖化対策の面からも、自動車交通への過度の依存から脱却し、自動車交通の総量を抑制することは、本市のみならず都市交通の課題の最も重要な事項の一つと認識いたしております。

一方、少子高齢化社会への移行に伴い、高齢者や弱者が安全にかつ安心して利用できる交通施設が必要とされており、また、歴史的、文化的施設が集中する地域には、その地域の町並みと調和のとれた沿道環境を創り出していくことも重要です。

これらのことから、今後の道路政策を進める上のキーワードは「歩いて楽しいまち」の実現であります。言い換えれば、「景観にも配慮した人優先の歩行空間の創出」であり、それを目指したハードとソフトの政策をバランスよく進めていく必要があります。

以上のことから重点化を進める上で特に優先度の高い政策は、環境問題への対応と安全・快適性の確保であり、自動車交通総量を抑制するためのモビリティマネジメント、自動車の低公害化、道路特定財源からの公共交通への公的資金の支援、貨物車の流入規制、バリアフリー化の推進などであると考えております。

＜その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見＞

本市には多くの橋梁が架設されており、またこれら橋梁の多くは昭和 30 年から 50 年代初めに施工されております。こうした既存橋梁の延命化を図るため、計画的に維持補修を行う必要がありますが、本市の厳しい財政状況の中で、市内の道路の維持管理に割ける費用も縮減の傾向にあり、こうした道路ストックの適切な管理に要する財源の確保が重要となっております。

また、道路の整備に関しましては、交差点改良などによるボトルネックの解消や歩道整備による通学路の安全確保、長期未整備路線の見直しと、必要な道路ネットワークの整備促進など、真に整備が必要な事業を優先し、早期に事業効果を発揮する必要があります。

これらの課題に対応するため、国レベルでの方策検討とともに、地方分権の主旨から、地方自治体が、これまで以上に道路財源を直接確保できる仕組みを構築していただきますようお願いいたします。

以上